

第35号

さくらしま

山下 勝教授就任記念号

2021



鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕
医局から見える桜島

目

次

巻頭言	1
会長挨拶	3
I. 山下教授就任特集	5
II. 同門会会員追悼	13
III. 同門会員業績・学会発表	22
IV. 教室行事	
1. 共催の講演会	24
V. 同門会報告	25
VI. 地域医療報告	26
VII. 特殊外来通信	
難聴・耳鳴り・補聴器外来	28
VIII. 病理集計	29
IX. 手術実績	30
X. 諸研究費	31
XI. 業 績	
1. 原 著	33
2. 総 説	36
3. 国内学会発表	36
XII. 医局通信	
1. 新入局員紹介	40
2. 医局人事	40

3. 学会報告	
①第3回日本アレルギー学会九州・沖縄地方会	41
②第82回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術総会	41
③第90回日本感染症学会西日本地方会学術集会・ 第63回日本感染症学会中日本地方会学術集会・ 第68回日本化学療法学会西日本支部総会	42
④第59回日本鼻科学会総会・学術講演会	42
4. 関連病院便り	
①鹿児島医療センター便り	43
②鹿児島市立病院耳鼻咽喉科便り	45
③鹿児島厚生連病院便り	46
④藤元総合病院だより	46
⑤天辰病院だより	47
XIII. 関連病院と診療日案内	48
XIV. 海外同門会名簿	51
XV. 自治医大研修生	55
同門会会則	57
編集後記	59

巻 頭 言

山 下 勝

2020（令和2）年5月1日から、黒野祐一第4代教授より鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室を引き継がせていただきました。

新型コロナ禍の中の着任となり、同門会の先生方には満足のいくご挨拶もできないまま今日に至っておりますことを、大変心苦しく思っております。一方、このような中にもありながら、多くのご支援ならびにご指導をいただいておりますことは、同門会との強い絆を実感するとともに大変幸せなことと感じております。

2019年12月、中国武漢にて原因不明の肺炎が報告されました。後に明らかになるこの新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に全世界に広がり、今尚恐るべき猛威をふるい続けています。2021年になり国内でもワクチン接種が開始されていますが、種々の変異株の発生により終息の目途はたっていません。2020年11月に日本医師会より示された「新型コロナウイルス感染症の診療所経営への影響」では、2020年6月までのデータではありますが、小児科および耳鼻咽喉科が入院外総件数対前年比30%減を下回る非常に厳しい状況です。一方で、小規模な研究会から国内外の大きな学会までウェブ開催やハイブリッド開催が、当然のこととなり最新の情報が入手しやすくなったことも事実です。大学での会議なども順次ウェブ形式が導入されてきております。今後、ポストコロナ時代が到来するのか、ウィズコロナ時代が継続するのか先が見通せない状況ではありますが、同門会の皆様とともにより良い耳鼻咽喉科診療を目指していきたいと思っております。

鹿児島大学病院では新しい外来棟（A棟）の建設が進められています。今後の大学病院の目玉となる改革ではありますが、同時に大きな負担を抱えることとなります。当教室はもとより、鹿児島大学病院を失うことがないように、まずはしっかりと臨床の基盤を確立していきたいと考えております。

そのためには、入局者を増やすことが必要条件です。日本専門医機構の試算では、2024年の鹿児島県の必要医師数から換算すると、毎年6名の新入局員を要請する必要があります。一方で、厚生労働省の試算により、将来的に耳鼻咽喉科医数の抑制が必要ともいわれています。鹿児島大学専門研修プログラムには2020年は3名が後期研修医として登録してくれました。2021年には後に挨拶があります、峠早紀子先生1名が登録してくれています。まだまだ必要数には至っておりませんが、後期研修医の先生方にしっかりと教育を行うことで、次世代を担う若い力を継続的に育ててまいりたいと思っております。

“The key to everything is patience. You get the chicken (Great ENT doctor) by

hatching the egg, not by smashing it.” Arnold H. Glasgow (1905-1998)

研究についても、黒野前教授が成し遂げられた多大な成果を目標として、順次立ち上げてまいり所存です。2021年4月より宮本佑美先生が大学院博士課程に進学してくれました。今後、動物実験施設の移転など様々な障壁もありますが、一步一步着実に進めていきたいと思えます。

同門会誌「さくらじま」は大山勝第3代教授により、昭和62年3月に第1号が発刊されました。当時、赴任10年目を迎えられ、「鹿大耳鼻科との出会いがなかったら、私の歩んだ人生は、大きく変わったものとなっていたと思う」、と綴られています。今回が第35号となりますが、当教室の伝統を守りつつ、次なる世代へとつないで参ります。

若輩者ではございますが、鹿児島県の耳鼻咽喉科医療の将来のために全力で挑みたいと思えます。同門会の先生方におかれましては、今後とも引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひいたします。

会長挨拶

死生は均（ひと）し（死と生は同じもので区別はない：藤原惺窩）

森 山 一 郎

会長になって初めての同門会総会が2021年1月16日（土曜日）に開かれました。コロナ禍でのWeb開催でした。また、同日の地方部会学術講演会もオンラインで行われました。Web会議はいま一つ臨場感にかけあまり好きになれませんが、県内外から移動の手間や時間の拘束などを考えると、もっと馴染んで常態化していてもよいのかもしれませんが。しかしながら、参加される会員全員のネット環境の確認や資料作成などの入念な準備が必要な幹事の苦労は、必ずしも軽減されてはいないようです。大堀純一郎先生はじめ関連した先生方、事務職員に心より感謝いたします。



話は変わりますが、先日本曜休診日の朝散歩中、回収ルール違反で放置されたごみを丁寧に処理されている近所のおじさんに出会いました。話を聞くと、20年来不正に投棄されたごみを処理して、ごみ収集可能な形で再提出又は自分で処分されているとのことでした。以前は電子レンジの投棄があり、これもちゃんとねじを外して解体し、適切に分別しなおしたそうです。このような善良な住民にお会いすると思わず頭が下がります。こういった方々に支えられ、美しい日本が維持できていることを痛感しました。

会長職に就いてから、さていったい何をすべきか、自問してきた1年間でした。自分

にできることは、会員の様々なご意見を拾い上げ、丁寧に真摯に対応することしかなさそうです。縁の下の力持ちとして、同門会を支え居心地の良い会に作り上げていく。そして会員全員が同門会を盛り上げてくれることを祈るばかりです。そんな中、山本前会長を名誉会長に推す意見と、物故会員への追悼文を募って同門会誌「さくらじま」に掲載する提案が出てきました。どちらも建設的な意見で大賛成でしたので、さっそく臨時役員会で取り上げてもらい、同門会会則の見直しと今回の「さくらじま」への追悼文の掲載が決定しました。これからも同門会の先生方のいろんな意見や提案を忌憚なくお聞かせください。

さて、この1年で同門会会員の4人の先生がお亡くなりになりました。

小生の愛読書の一つに徳富蘇峰の「吉田松陰」があります。その中で深く感銘を受けた記述があります。松陰は満29歳で処刑されますが、自分の30年間を振り返れば惜しいけれども、もって生まれた人寿の中で四時（四季：春夏秋冬）を完遂させたと思えば、哀しむことはないと言っています。

「10歳にして死するものは10歳中自（おのずか）ら四時あり。20は自ら20の四時あり。…50, 100は自ら50, 100の四時あり。10歳を以て短しとするは、蟋蟀（けいこ：夏ゼミ）をして霊椿（れいちん：古椿の霊）たらしめんと欲するなり。云々」

亡くなられた先生方の中には世間一般からすれば、短命だった先生もいらっしゃいますが、それぞれの四時を全うし全力で駆け抜けた生涯だったと思います。

生きる死ぬを考えれば考えるほど、宗教的な或いは哲学的な迷いの中に入り込んでしまいます。最後に、晋の盧諶（ろしん）の詩「死生は既に齊（ひと）し」を挙げて本稿を閉じます。

衷心より4人の先生方のご冥福をあらためてお祈りいたします。

山下 勝教授 略歴

氏名：山下 勝（やました まさる）

生年月日：昭和45年12月25日（50歳）

本籍：兵庫県伊丹市

経歴：平成8年3月 鹿児島大学医学部医学科 卒業
 平成8年7月 京都大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 研修医
 平成9年10月 静岡市立静岡病院 耳鼻咽喉科 医員
 平成12年9月 西神戸医療センター 耳鼻咽喉科 副医長
 平成15年4月 京都大学大学院 医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
 博士課程入学
 平成19年3月 同 修了（京都大学博士（医学））
 平成19年4月 米国ウィスコンシン大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 客員研究員
 平成22年1月 草津総合病院 頭頸部外科センター 部長
 平成24年4月 田附興風会医学研究所 北野病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
 副部長・リハビリテーションセンター 副センター長・第5研
 究部 主任研究員
 平成28年4月 京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教・
 病棟医長
 平成30年4月 静岡県立総合病院 頭頸部・耳鼻いんこう科 部長
 令和2年5月 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 先進治療科学専攻
 感覚器病学講座 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野 教授
 （京都大学客員研究員，京都大学医学部 臨床教授・非常勤講師 兼任）

専門分野：臨床；喉頭科学，頭頸部腫瘍，鼻科学

研究；喉頭気管における再生医療，組織医工学

所属学会：日本耳鼻咽喉科学会 代議員

日本頭頸部癌学会代議員

日本頭頸部外科学会代議員

日本気管食道科学会評議員

日本喉頭科学会評議員

日本口腔・咽頭科学会評議員

日本音声言語医学会評議員

耳鼻咽喉科臨床学会運営委員

American Broncho-Esophageal Association；Active member

その他

山下 勝 教授の包容力と躍動に期待します

うえの耳鼻咽喉科クリニック 鹿児島県耳鼻咽喉科医会会長 上野 員義

山下 勝 教授のご就任を医会としても歓迎いたします。早速、昨年10月、感染対策を施し、医会主催で、山下教授のご講演を拝聴しました。その際、医会員一同、先生の優しいお人柄と包容力、未来へのエネルギーを感じました。

昨年春、学会（日耳鼻）と協力し、全国の都道府県医会を統合する形で臨床耳鼻咽喉科医会が設立され、学会と医会が一致協力し、様々な分野で耳鼻咽喉科の発展に、グローバルかつローカルに寄与することが確認されました。特に、昨今のコロナ禍のような緊急時において、学会と医会の協力は不可分となってきました。そのような中、早速、山下先生が率先して鹿児島県耳鼻咽喉科医会にB会員（勤務医会員）として、静岡県から異動入会していただきました。改めて先生の包容力に感銘しました。

「日本人の心の底にはいつも山がある」、「富士山だけは、ただ平凡で大きい。しかし、結局その大きな包容力にかなわない」（深田久弥、日本百名山から）。山下先生は、静岡にて激務をこなしながら日々富士山を眺め、包容力を培ったと想像されます。一方、桜島は何といても、エネルギッシュ、躍動の山であります。山下先生が、鹿児島大学に凱旋されたのも、鹿児島での6年間の学生生活で培われた心の底の桜島が、先生の躍動性に火をつけたのではと推察します。

先の深田久弥の名言に「登山心得の一つ、嵐の日に出発せよ」が、あります。富士山と桜島に負けない先生の包容力と躍動に期待し、コロナ禍からのスタートですが、様々な困難に立ち向かい、鹿児島の耳鼻咽喉科の頂点で「晴天を衝く」ことを大いに期待します。

山下 勝 教授 ご就任おめでとうございます。

日本医科大学医学部 耳鼻咽喉科学 松根 彰志

私が山下先生に初めてお会いしたのは、まだ先生が鹿児島大学の学生で耳鼻咽喉科にポリクリでまわって来られた時でした。私は、当時鹿児島大学の耳鼻咽喉科に勤務していましたので、いろいろお話したと思うのですが、郷里が私と同じ大阪でどうやら耳鼻咽喉科医になるお気持ちがおありだということが次第にわかってきました。当時は、今のような初期研修制度は無くストレート入局OKの時代でしたので、当然のことながら優秀な人材確保の為に勧誘活動頑張りました。しかし、「関西に帰って、耳鼻咽喉科」

というのを希望され京都大学の耳鼻咽喉科に入局されました。かなり残念な思いをしたことを記憶しています。その後、京都大学の医局で耳鼻咽喉科一般、更には咽喉頭領域を中心に研鑽、研究を積まれました。その間、臓器別、病態別の学会でお会いすることは無かったのですが、特に私が日本医大に移った頃から、日耳鼻総会や耳鼻臨床では声をかけていただき近況などお話しする機会がありました。とは言え、まさかこういった形でまた母校の鹿児島大学に戻って来られることになろうとは予想していませんでしたので、とても驚きました。先生が、教授に就任されるのと前後して新型コロナウイルス感染症の時代となり、鹿児島—関西—関東の往来は難しい時代になってしまいました。しかし、ご就任前後以降、お電話や私が担当しております「武蔵小杉の研究会」でweb特別講演（本年2月）していただいたりと、コミュニケーションをとらせていただきましたところ、鹿児島大学の教室を山下教室として立ち上げるのに並々ならぬ強い決意と情熱を持っておられることを直接お聞きして、心から期待したいと思っております。この時、「鼻科領域も・・・」というビジョンもお聞きしておりますので、是非とも頑張りたいと思います。私事ですが、今年の10月には62歳になりあとせいぜい3年ぐらいとなりました。当地に来て神奈川や東京の先生方、日本医大の皆様のお世話になってちょうど10年、本当に早いものです。「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」とはよく言ったものです。是非とも、山下先生には最初からエンジン全開で遠慮することなくご自身のお考えでやっていかれることを祈念申し上げます。最後に、私が当地で何とかやらせていただけているのは、好酸球性副鼻腔炎症例をはじめ多くの（手術）症例を、これでもかこれでもかと、紹介して下さる近隣の耳鼻咽喉科、呼吸器内科の先生方のお陰です。鹿児島の皆様におかれましては、鹿児島大学、山下教室の今後の発展とともに歩んでいただけることを期待して、はなはだ拙文ながら、お祝いの投稿とさせていただきます。

山下 勝教授のご就任をお祝いして、 大昔の医局の思い出と一女性医師のドタバタ人生

林内科胃腸科病院（ことばときこえの外来） 鹿島 直子

山下 勝先生、鹿児島大学教授ご就任おめでとうございませう。大きな期待と喜びをもってお迎えます。もうすでに鹿児島県の小児難聴、特に新生児聴覚スクリーニング後の医療、療育の問題についても、多くの頼もしい将来展望をお示しくださっています。またご赴任後早速でしたが、「鹿児島県新生児聴覚検査にかかる手引き書」作成委員としてもご参加いただき、具体的なご指導、ご指示をいただきました。本年1月、鹿児島

県こども課から第1版の発行となりました事、感謝申し上げます。

ご自分の専門分野である頭頸部外科だけではなく、鹿児島県耳鼻咽喉科医療のすべてについて、リーダーとしての責任と気概をお示しくださっていることに、安心と感謝の気持ちでいっぱいです。ひたすらご発展を祈ります。

大学の医局とはとても面白いことにあふれていて、楽しいところだと、私は今でも思っています。子どもの頃からの知りたい、解決したいとか思う心を失わずに、いろいろなことをやり遂げられるところだとも思うのです。日常の臨床の中からも、材料を見つけることができます。大昔、私自身は在局中に3人も出産して、いろいろ諦めましたが、若い医局員のみなさまは、山下教授と共に大いにでっかい夢に挑戦してください。

さて、昔話になりますが、1969年、九州大学耳鼻咽喉科学教室、当時河田政一教授が会長として日本耳鼻咽喉科学会学術総会を開催されました。同教室ご出身の久保隆一教授にはシンポジウム「咽頭腫瘍の治療」のシンポジストの一人として依頼がありました。早速シンポジウム対策会議が開かれましたが、席上久保教授から「5年生存率を検討する以外に“他に何かないか”」という提案がありました。当時のがん治療はまず5-FU点滴静注とコバルト照射併用、手術、術後再度化学療法・照射が基本でしたので「薬剤投与後、何時間で局所濃度がピークになるのかを検討してはどうですか。そのピーク時に照射するという設定です。扁桃組織だったらできます」とつい私は安易な発言をしました。そして結局「君やってみなさい」という事になりました。その後5-FUメーカー（協和発酵）の開発担当の方には本当にお世話になりました。今でも感謝しています。

実験を簡単に説明しますと、トリチウムでラベルした5-FU薬剤を実験犬に静注し、そのあと30分、1時間、2時間、3時間まで、基本的に30分単位で経時的に扁桃組織を摘出し、それぞれのトリチウム濃度を測定するという方法でした。測定は東大の研究室に依頼していただきました。結果としては、投与後2時間で組織内トリチウム濃度がピークとなったと記憶しています。これを受けて臨床でも照射時間が設定されました。まだ問題はありましたが、症例検討もなんとか形になり、スライドも完了して、準備終了となりました。

その時急に背後から「君、原稿はどうなっているのか」と声がしました。私も日耳鼻総会に「突発性難聴」の演題を提出していました。学内の写真室でスライドは出来上がっていましたが、なにしろ教授のシンポジウムの原稿自体がざりざりの上がりでドタバタして、自分の事どころではありません。当時私は医局長でした。結局、翌日の福岡に向かう夜行列車の上段で寝そべってようやく仕上げました。予演会もなく、乱暴なことではありました。

私の発表は、発症時の聴力型の分類やそのタイプごとの治癒状況の分類などいくつかの要素を検討してウイルス、血管障害、迷路浮腫、ストレス等々予測される発症機序に

よって治癒過程にも差があるようだというようなことであったと思います。「星状神経節ブロックも有効」が、当時共通認識でその後も、施行してはいましたが、本当にそうかなと今でも思っています。それもこれも、やっぱり突難の発病原因が真に解明されていないからでしょう。フロアーからの質問や座長の温かい言葉が印象的でした。その年のオーデオロジー学会でも発表して、「突発性難聴特集号」の執筆者の一人に加えていただきました。

教授のシンポジウムも無事終了いたしました。ただ、鹿児島大学の治療成績は、他を寄せ付けず、抜群に良好でした。確かになんとなく気になるほどでした。その後も、他教室の臨床データの講演や会誌の投稿論文でも「鹿児島大学の報告は特殊である」とほんの一言のコメントが見受けられました。

その後、みなさまご承知のように1977年、京都大学内科・高月 清先生（熊本大学名誉教授）によって、「日本列島の南西部に多発する細胞性白血病として成人T細胞白血病（ATL）」が特定されました。これこそ歴史的なATLの発見でした。それによって1979年、私が、国立鹿児島病院から退官後久保教授が嘱託医として、松村助教授が部長である鹿児島市立病院に移動したころには、すでにATLの病理学的診断も確立されていました。その頃、臨床現場ではATL由来リンパ腫（扁桃腫瘍形成など）治療もまだ内科ではなく、腫瘍の存在箇所によって各科で担当していた時代でした。そこで、多くの腫瘍症例を治療するうちに、きっと、あのシンポジウムの咽頭がん統計では鹿児島でも当然非常に多かったATL起源悪性リンパ腫が含まれていたのではと思いました。今、当時の血液や病理標本を見直すことが出来たら面白いのにとっております

さらにATLを除外しても、特に中咽頭がんには、扁平上皮癌・腺癌という分類と進展状況だけでは説明しきれない何か、腫瘍の顔も治り方も違うタイプがあるような気がしていました。発病年齢も違いました。今話題のHPV起源がんです。“これは何か違う”と思いつつ、定年を迎えてメスを描きましたが、いま、遺伝子検査はいろいろなものを明らかにしてくれていますし、免疫療法の進展も楽しみです。私は日耳鼻総会でも、〇〇領域講習よりも、時には半分も理解出来ないこともあります。私がこの世を去ったあとの将来がみえる若い研究者の発表が楽しみです。しかしこの10年ほど日本医師会の委員や鹿児島県医師会の常任理事などで出張と会議が重複して学会にも出かけられない状況が続きました。

鹿児島市立病院では久保教授の最後の手術まで、すべてご一緒させていただきました。ある意味戦闘的でありつつも、きちんと整理された芸術的手術でした。それ以後もおかげさまで、頭蓋底も怖くはありませんでした。まもなくして、鹿児島市立病院には優秀な形成外科が開設され、広汎摘出後の再建を存分に行うことが出来るようになりました。時には夜明けの明星を眺めつつ帰宅することもありましたが、むしろ至福の時

でした。

しかし今「耳鼻咽喉科は外科です。君、メスを捨てるな」といい続けてくださった久保教授の時代から、精密、精巧となった内視鏡やダヴィンチ手術の時代へと、移ってきました。早期がん発見技術の進化と相俟って、これからのがん治療は急激に変化するでしょう。もちろん山下教授の音声・構音機能、嚥下機能の保持、再建等の優れた手術は、これこそ私達が待ち望んでいた大きな福音です。

ところで前出しの突発性難聴は私の学位テーマとして与えられていました。症例報告だけでは「何を書いてもいい」とは言われましたが、どうにもならず、本当に蝸牛の中を覗けない悔しさを味わいました。しかも私は例のシンポジウムの1年後には3人の子持ちになっていました。当直不可能な時期には、お正月休暇すべての日直、普通の休日も日直に入るなどで凌ぎましたが、県立宮崎、県立鹿屋、県立大島病院への赴任や短期出張のローテーションに加わることはできず、責任を果たせず、やはり居心地も少し悪くなっていました。本当に申し訳ないことでしたが、退局を決意した上で、手術室も整備された鹿児島鉄道病院に就職しました。

一方、大学ではなおも外来の難聴・メマイ診療と学生実習、講義も担当し、「手術室では私の手術につきなさい。大学を離れるな、大学の難聴・めまい患者は君が診なさい」と退局時の指示に従いました。それから間もなく夫のミシガン大学留学が決まり、急遽ともに渡米することとなりました。ECFMGに合格していた夫は高血圧セクションでの研究・臨床に関わっておりましたが、主任教授が私にも声をかけてくださって、耳鼻咽喉科・ワーク教授とミシガン大学クレスギー聴覚研究所のローレンス教授をご紹介くださいました。ワーク先生は主として耳硬化症の手術でしたが、スウェーデン、ノルウェーからの患者さんも多いところでした。しかし土曜日の午前7時からの総合回診では、有茎皮弁術後の患者さんなど、多くの見事な術後の方々を拝見しました。ある時、私共家族でご自宅をお訪ねした高血圧セクションの助教授、ジュリアス先生にその話を申し上げたところ、男のお子さんを膝に抱きなら、「土曜日の回診なんて、君は耳鼻科医にはならないように」とおっしゃって、みんな笑ってしまいました。でも私にとって土曜日は夫が家にいるので、ベビーシッターをお願いしなくていいのでありがたい面もありました。

クレスギー研究所のローレンス教授には、もともと多くの「突発性難聴」の基礎的論文があり、私も拝見していました。ご挨拶に伺った時にも、最新の別冊を戴きました。研究室には突難既往歴のある蝸牛管の顕微鏡切片や電子顕微鏡標本がありました。しかし何故そのような「人間の蝸牛管」が入手できるのか不思議でお聞きしましたところ、USAでは、患者さんの病歴情報はどこにでも細かについていくため、各大学病院などに依頼しておけば、ご遺体の病理解剖の際に摘出してもらえるからだと説明してくださ

いました。材料は豊富でした。

帰国後、久保教授に経験したことの報告を致しましたが、何しろ日本では無理な話でしたし、モルモットの突難モデル作成なども考えられませんでした。

帰国を待っていてくださった鉄道病院にまたしばらく勤務した後、国立鹿児島病院から「耳鼻咽喉科なしでは総合病院の資格を失う」ということで再三の要請があり、また鉄道病院には迷惑をかけつつ、国立病院へ移りました。時代は国鉄がJRに変容していくまさに大嵐の前であったと思いますが、本当に好意に溢れた素晴らしい病院であったことを私は忘れません。

間もなく久保教授退官で、新進気鋭の大山勝教授が赴任されました。結局、私の内耳を観察したいという願望は、大山教授により、叶えていただけることになりました。本当に心から感謝申し上げます。突難モデルは無理でしたが、モルモットを用いた騒音暴露実験を行うことになりました。すばらしい臨床工学研究者の溝井一敏先生のご指導をいただきました。先生のご指示通りの騒音負荷ボックスを作成しなくてはなりませんでした。なんと国立病院の木工室で見事に出来上がりました。その昔、地域の国立病院は結核病棟が大部分であり、主として亡くなられた方の棺桶造りの技手の職員がいらしたそうです。当時はもう棺桶製作はないにしても、国家公務員である職員の方たちは、他業務職員として勤務しておられました。

騒音負荷は音の質・量・時間を変えて、恒久的障害や、回復する一過性の障害の状況を分析して、その蝸牛病態を電顕的に観察していくことになるのですが、それぞれ実験に犬とモルモットの差はありましたが、また5-FU実験と同じように時間を追っかけていました。

電子顕微鏡はまだ鹿大医学部には存在せず、大山教授の盟友広島大学・原田康夫教授にお世話になることとなり、条件の異なる騒音負荷後のモルモット数匹と一緒にでかけました。

標本作成では広大なみなさまにお世話になりました。電顕の映像は周囲の研究室の電気消費量の落ちる夜間によく鮮明となりました。古葉広島カーブ全盛時代でした。

内耳は有毛細胞障害のみならず、支持細胞の変化なども興味深く、もっと続けていたいと思いましたが、長い間非常勤講師としてもつながってきた大学の生活はここで終わりました。しかし実験ボックスは生き延びて、その後は大山教授の「騒音難聴等へのビタミンB12の効果の検討実験」にも使用していただきました。モルモットの聴力測定に使ったA B R検査はその後ずつと新生児難聴と関わることになった私の生涯の友となりました。実験補手浜田（旧姓嘉野）好美氏に心から感謝致します。

そういえば、大学移転・新病院の図面作成段階で、教授は九大の聴力検査室を視察なさいましたが、そこで、突発性難聴を発症されました。第1回目の星状神経節ブロック

は九大で、あとは松村助教授と交代で施行致しました。治療の指示は「患者さま」ご本人が出されました。回復後しばらくは何度か「突発性難聴の自験例」と題して、講演をなさいました。

書いてしまえば、臨床に徹した一女性医師のドタバタ劇ですが、若い医局員の方々はもっとスマートに、有意義な医局生活をおくっていただきたいと願っています。

何はともあれ、まだしばらくはボケない限り、山下勝教授の応援団の一人であり続けたいと思っています。お元気で、大いなるご発展を祈ります。

会長追悼挨拶

森山 一郎

この1年間に4人の会員が鬼籍に入られました。此処に、上村達郎先生、橋本眞実先生、島哲也先生、大堀八洲一先生を偲んで、各々の追悼文を奉ります。

＜上村達郎先生＞肺炎のため、2020年7月23日死亡・89歳



入局2年目で市比野温泉病院に勤務していたとき、川内市で開業されていた上村達郎先生とはじめて個人的なお話をしました。新人で未熟な小生でしたが、達筆で丁寧な紹介状を認め患者を紹介してくださったり、会合の席ではお声がけしてくださったりと、随分とかわいがられました。確か初めてすっぽんの生き血を飲んだのも、上村先生との川内市での会食の席だったように記憶しています。残念ながら臨床の場での直接のご指導は賜りませんでした。市比野温泉勤務後も何かにつけ川内市の耳鼻科開業医の事情などをお話しくださって、親しいお付き合いは続いていました。小生が開業してからは年賀状の行き来だけのお付き合いとなりましたが、今更ながら暖かいお人柄が偲ばれてなりません。

＜橋本眞実先生＞2021年1月14日死亡・70歳



入局したての頃はいつも叱られてばかりいました。左手でも間接喉頭鏡を持てるように、メスの持ち方がよくない、採血に時間をかけるな、述べれば枚挙にいとまがありませんが、橋本先生は決して怒っているのではなく、丁寧に実に丁寧に指導しているつもりなのが、こちらが勝手に叱られていると受けとめることが多かったようです。いつものように怒られて、こちらが少し理不尽で不満げな顔をしたときなど、さっきは少し言い過ぎてごめんね、と必ず後で声をかけて下さっていました。とても人間味溢れ、根は優しい先生なのです。今頃は、泉下から「森山君、また変なことを書きやがって」と優しくがって（叱って）いることでしょう。安らかに眠りください。

<島哲也先生>大腸癌のため、2021年3月6日死亡・63歳

煙草を吸って、なくなればすぐにまた新たな煙草に火をつけて、紫煙をくゆらせる独特なポーズで思案に暮れる科学者然とした姿は、惚れ惚れするほどでした。きっと頭の中はアラキドン酸カスケードでいっぱい、その滝のしぶきがあちこちに飛び散り思索を巡らせていたのでしょう。そんなヘビースモーカーがあだとなったのか、数年前に腎癌闘病中だと聞かされたときは、ショックでした。

計画的に診療を休み定期的な抗がん剤の投与を受けていた時は、すっかり緩解期に入ったものと思込んでいただけに、訃報を知った時は非常に残念でした。

<大堀八洲一先生>心不全のため、2021年4月11日死亡・80歳

大堀八洲一先生とは、医学的な話をした記憶はほとんどなく、医者になる前の名古屋での経歴や社会情勢か囲碁の話ばかりでした。とても多趣味で、いつも楽しく聴いていました。また、すでに鬼籍に入っていますが当時の助教授の勝田兼司先生と同年齢とはいえ、怖かった勝田先生と仲良く対等に話されているのを見るにつけ感心していました。小生はへぼ碁で、囲碁の対局のときは5子置かせていただいていたのですが、負けてばかりいました。囲碁には19×19の391のマス目があり、真ん中の星の目は天元とあって、残りの360目を地上にたとえ、戦をするゲームです。故大堀先生は、その天元から見る大局観が素晴らしく、まるで自分の人生を達観しているようで、ある種の諦観に至ったことと思います。きっと今頃は雲の上でこれまでの碁聖たちと碁を打ちながら、天元から俗世間を見守っていることでしょう。

追悼文

うへの耳鼻咽喉科クリニック 上野 員義

立て続けに、尊敬する優しい先輩先生方を亡くしました。悲しい訃報の連続に、私が院生として耳鼻科医局に入局した4年間が走馬灯のように蘇ってきました。40年前、耳鼻科入局を決意したのは、ポリクリ時に感じた医局の明るく和やかな雰囲気でした。その和やかな雰囲気を醸し出す写真が我々学年の卒業アルバム（Vorgeschichte）に掲載され、3人の先生方が同時に写られていることを思い出しました。1982（昭和57）年夏ごろの医局でのスナップです。早くに他界された前山先生も写っておられます。

当時、外来医長か医局長をされていたであろう橋本先生、豊富な人生経験をされてき

た医員の大堀先生，入局1年目のフレッシュな島先生。3名の先生方には，直属の先輩として多くのことを指導していただきました。厳格ななかにも優しさがにじみでる橋本先生，博学とともに飄々としながらも，どこか達観したような大堀先生，物理学者タイプの繊細な島先生。個性的な先生方に囲まれ，忙しい中でも幸せな時代でした。



みみ、はな、のどを大切に

追悼

せんだい耳鼻咽喉科 内菌 明裕

2020年初頭に始まったCOVID19のパンデミックは，死亡率こそ欧米諸国に比較して低いものの，むしろそのために，施策は後手後手に回り，国民に自粛を強いるだけの愚策を繰り返しながら，とうとう2021年春になっても何も解決していないという状況です。

感染防止措置の中，COVID19とは無関係に，大切な方々が逝去されました。

心から哀悼の気持ちを捧げたいと思います。

上村 達郎 先生

先生に初めてお会いしたのは，医局時代のおそらく入局翌年の春（S59年3月）だったかと思います。

当時「耳の日」健診という企画があって，当時の川内市（現在の薩摩川内市）で行わ

れた際に、先生がわざわざ健診会場へお越しになり、なんと終了後に先生のおごりで、当時結構有名だったイタリアンレストランにご招待いただき食事をごちそうになりました。大人数で出かけて行っておりましたから、驚きの歓待でした。

そのとき食べたパテの味が忘れられません。

奇しくも1994年（平成6年）12月に、私は川内市で開業することになり、開業前のご挨拶に伺ったときにも、大変優しく迎えていただき、「早く学校検診の分担をお願いしますよ」と励ましていただきました。

川内市の幼稚園保育園、小中学校の学校健診では、感染防止の目的で、確か2000年からいち早くディスプレイの器材を使って行うようにしましたが、その際の検討会で、早速、その機材のメーカーとの交渉を含めて、器材の紹介をしていただいたのも達郎先生でした。

人当たりが優しく、いつも丁寧にお話しして下さった印象が心に刻まれております。本当にお世話になりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

橋本 真実 先生

橋本先生には良く怒られました。入局当時、一番怖かった先生です。最初に怒られたのは、お名前を読み違えたときだったと記憶しています。「まこと」とお読みするとはつゆ知らず、「まみ」さんである訳ないし、男性だから「まさかね」先生とお呼びして、こっぴどく怒られました。その横で、山本まこと（誠）先生が、笑って見ていらっしゃいました。

その後は、厳しいながらも小さな事まで、丁寧に教えていただきました。奥様も含めまして、家内共々とてもかわいがっていただきました。開業してからも何かと気にかけて下さり、私が道を踏み外さないように、お声かけしていただきました。

COVID19のせいで、直接お悔やみにも出向くことができずに、本当に心残りでした。どうぞ向こうからも厳しくお見守り下さいませ。

合掌

島 哲也 先生

先生は、一級先輩です。一つ上の学年は、島先生と花田先生のおふたりでした。ですから、わからないことなど良くお尋ねしていました。しかしながら、どちらかと言えば、診療に関する事より、メカニックとか車の話をされるときの先生のいきいきしたお姿が忘れられません。

当時、乗っていた車がホンダシビックで、いわゆる CVCC エンジンの最初のモデルで、そのメカニズムや燃費があだこうだと解説して下さいました。「サスペンショ

ンがいまいちで、長時間のドライブだと首が痛くなるんだよねえ。」と話しておられたのを思い出します。

私は、開業の年に1月から10月まで星塚敬愛園の勤務になりました。私の前任者が先生でした。ハンセン病の患者さんでは、耳管通気を希望される方が多く、中でも鼻咽腔の炎症の程度によって通気管をどこに挿入すれば良いのか全くわからない方が数名おられ、毎回途方にくれていましたので、帰ってから先生にどうしたら良いのですかとお尋ねしたところ、理詰め先生にしては意外にも「気合い一発ですよ」とのお答え。その一言でなんだか気が楽になり、その次からは、何とか慣れていったものです。

最後の最後まで、積極的治療を希望され、賢明に闘っておられたと伺いました。

残されるご家族を深く思うお気持ちからだったのだろうなあと

先生のお人柄を偲びつつそう感じました。

心より深くご冥福をお祈りいたします。

大堀 八洲一 先生

お三方の追悼文を送信した翌々日に、FAXが飛び込んできました。

胸がつぶれる思いでした。

大堀先生は、医局では、二級先輩でしたが、お年は、当時の故 勝田兼司助教授と同じ年だと言うことでした。先生が、酔うとよくおはなしされていたのが、名古屋大学の工学部かを卒業されて、理工系の会社に技術者として入社され、数年勤務されているうちに、ある日のこと、会社に出勤してみたら、なんと会社が倒産していたとのこと。

そこから一念発起で、鹿児島大学の医学部に入り直され医師になられたというとてもない経歴をお持ちでした。

とても優しくてウイットに富んでおられ、完璧な理数系で、頭脳明晰、囲碁の達人でもいらっしゃいました。お酒も大好きで、そしてとても愉快なお酒でした。南九州中央病院の勝田先生の所に時々、ふらっとこられて、外来の隅で、囲碁を指しておられたのが思い出されます。

数えの81才（やそいち）で亡くなるなんて、やはり最後までウイットに富んでいて、先生らしいなあ。

向こうで、またお二人で、盤を挟んで丁々発止されていることでしょう。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

私事ですが、2021年1月末に父がみまかりました。95才でした。

心の支えを失ったときには、目に見えない、なんと言ひ様もない気持ちが心の奥に沸いてくるものですね。

どうぞ、ご遺族のお心が一日も早く癒やされますように、心から哀悼の気持ちを捧げたいと思います。

橋本眞実先生を偲んで

原口耳鼻咽喉科 原口 兼明

先生との出会いは、耳鼻科に入局した昭和59年でした。私の亡き兄（耳鼻科在局昭和53年1月-11月在局中事故死）と懇意にしていたとのことで、その弟である私に対して多少なりの心配りして下さっていたことに対して非常に感謝しています。耳鼻科医としてスタートしたばかりの頃で、医学的なことばかりでなく生きていく上での気構えのようなものも教えて頂きました。昭和61年4月から県立北薩病院が二人体制になるとのことで、先生とともに、入局2年目にして大口に赴任することになりました。一年間ではありましたが、貴重な時間であったと思います。昼間は、診療で色々教えるを請うて診療技術も高められましたし、夜は夜で、先生が単身赴任であったのも一因ですが、当時脳外科と耳鼻科の急患が多かったため、病院での当直を兼ねて部長二人とその下二人の四人で雀卓を囲んだりして、一緒に過ごす時間もかなりあり、会話の中で色々なことを勉強させて頂きました。社会情勢についても先生の名前があるように何が「眞実」かを見極めることがいかに大切であるかなども教えられた記憶があります。私がイデオロギー的なことで、生意気な議論を投げかけると違う捉え方で優しく諭された場面もあった記憶があります。開業時は、開業医としての心構えや、院内設計に当たりレイアウトの重要性なども教えて頂き、それを実行して診療しやすい環境での仕事が今できている事には、非常に感謝しています。また、鹿児島県保険医協会の存在も教えて頂き、入会の際には、その共済制度の素晴らしさも教えて頂きました。今では、協会の役員までやっている自分がいます。まだまだ、書ききれませんが、字数の制限もあり、ご冥福を祈って、これで筆を置きます。

橋本先生！本当に有難うございました。安らかにお眠りください。

橋本先生を偲んで

山本耳鼻咽喉科 山本 誠

鹿大耳鼻咽喉科教室で研鑽を積み、耳鼻咽喉科医会を伴に担ってきた橋本先生、島先生、大堀先生を相次いで失った事は鹿児島県の耳鼻咽喉科にとって大きな損失であり、痛恨の極みです。御遺族の方々に哀悼の意を表します。

橋本先生とは昭和51年度の同時入局で、高校の先輩、後輩でした。厳格で几帳面な性格は私とは真逆でしたが、不思議と馬が合いました。当時の医局は医局員が少なく、外来、病棟、手術、当直を全員でこなし、夕方は医局で急患待機をしながら、ビール片手に先輩の苦労話や失敗談を聞かされ、9時を過ぎると皆で天文館に繰り出していました。こういう状況下で全ての雑用は新入医局員の役目でお互いに協力せざるを得ずにおのずから一心同体になっていきました。

国立都城病院、県立宮崎病院、県立大島病院と前後に出向して一緒に仕事する期間は少なかったが、機会をとらえては情報交換し、切磋琢磨しました。大学では外来医長、病棟医長、医局長を交互に努めて、新しい医局作りについて議論したのが懐かしく思い出されます。

開業後も色々な面で陰日向に支えてもらい、貴重な助言もいただきました。よく勝田先生を囲んで飲食を伴にし、最後は2人だけで人生論を語り合い、いつとはなしにお互いの別れの詞は残った者が述べる事になっていました。

橋本先生は数年来糖尿病と緑内障に悩まされ、次第に視力が低下して外出もままならない状態となり、医院は松山先生に引き継いでもらっており、一昨年8月に橋本先生夫妻と原口先生との4人で会食したのが最後でした。あの時の笑顔が今でも脳裏に浮かびます。今年の1月15日の午後3時「橋本先生の奥様から電話です」との声に何か胸騒ぎがし、「昨日主人が亡くなりました」との知らせに絶句しました。コロナ渦なので家族葬にしますとの事で参列もかなわずに送る詞も述べられなかったのは残念でしたが、後日遅かれ早かれ、いずれはそちらに逝くからその時は大いに歓談し痛飲しましょうと遺影の前で合掌しました。

良き友でライバルであり、飲み友で良き相談相手であった君に会えた事に感謝します。安らかにお眠り下さい。

ご指導いただいた諸先輩方を偲んで

日本医科大学医学部 耳鼻咽喉科学 松根 彰志

鹿児島大学の耳鼻咽喉科の医局から、大変お世話になりました諸先輩方の訃報が届きました。昨年度には、上村達郎先生、橋本眞実先生、島 哲也先生が、そして今年度に入ってからは大堀八洲一先生がご逝去されたとのこと、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

私もそして先生方もまだ若かった頃のお顔を思い出し、心からの惜別の念をもって思い返しているところです。上村先生には、私の医局長、助教授時代、地方部会の行事などで、親しくお声をかけていただき多々お気遣い溢れたご指導をいただきました。ユーモアのある飄々とした感じであられ、ちょっと真似できません。橋本先生は私の入局時の外来医長で、恐ろしくも丁寧にご指導をいただきました。今でも、「松根く～ん、君は何やってるの？」と言われながら、お顔が正面に迫ってくるあの迫力が忘れられません。その一方で、カラオケはとても美声であられました！今の時代、若い世代に対してああいうこつてりとした指導がなかなかできません。島先生は、大学の2年先輩で、私が所属していました準硬式野球部の先輩と親しくしておられたので学生時代からよく存じ上げておりました。入局してから、1～2年先輩というのは何でも気安く質問できるというもあり、島先生にもよく面倒をみていただきました。特に忘れられないのは、私がアメリカに留学するとき、どうしようか困っていた自家用車を「私が預かっておきましょう。」と物静かな感じがかつ快く引き受けていただいた事でした。あの時は本当に助かりました！有り難うございました。大堀先生は、名古屋の電気・工学関係の大学を卒業されてから医学部に入学されて医師になられました。入局時には、顔面神経や聴覚領域などの電気生理学的検査の原理や実施法について丁寧にご指導いただきました。また、クラシック音楽にご造詣が深かったと記憶しています。特にバッハでした。お陰様で、パイプオルガン、「G線上のアリア」「イタリア協奏曲」「トッカータとフーガ」などといった、これまで縁がなかった種類の音楽をととても新鮮な気持ちで聴いたことを記憶しています。

大学の医局やその関連行事の場は、勉強の場であり職場でありそして生活の場でもありました。時間も曜日も関係なく、何となく医局にいるといろいろな先輩からいろいろなことを教わりました。その1つ1つがその後の肥やしになったことは間違いありません。大学の医局に長時間張り付くことが、つらい「義務」であり、それから逃れることが「権利」であるという考え方が流行りの時代となっています。そして、大学病院での卒後研修システムは安易な医局批判の材料にもなりました。そういった批判は、少なく

ともこの度ご逝去された先輩方に続いてあるいは共に歩んだ私たちの熱い日々とは無縁のものであると思っています。上村先生，橋本先生，島先生そして大堀先生は，私にとりまして忘れ得ぬシーンに不可欠の存在でとても個人的で存在感ある先輩方でありました。そして，思い出す顔はすべて笑顔であります。先輩方本当に有り難うございました。とてもお名残り惜しいですが，ご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。

追悼文

耳鼻咽喉科おおのクリニック 大野 文夫

私が医局から出向を命ぜられたのは国分中央病院でした。昭和62年鹿大耳鼻科に入局させてもらって間もない時期で，不安だらけの私に「何とかなりますよ」と飄々と引き継ぎをしてくれたのが前任者の大堀八洲一先生でした。藤崎院長主催の大堀先生の送別会では主賓自ら楽しそうに歌い踊って場を盛り上げる姿に驚愕し，社交性に乏しい私は羨望の目で見ていました。

その後先生は退局開業されたのですが，一年後私が移動した南中に大堀先生は自分の休診日を利用して毎週姿を見せていました。大堀先生は私と同時期の医学部卒ですが，実年齢は勝田先生に近いということもあってか，私にとっては恐ろしいばかりの勝田先生でも一目置く存在でした。その頃名物だった勝田先生の下での南中研修（勝田道場）では「朝から晩まで馬車馬のごとく働け」がスローガンだったと記憶しています。そんな中でも欠かさないのが反省会と称する飲み会で，そこでは時に勝田先生から長い説教も頂きます。そんな時大堀先生が間に入ってくれ絶妙な緩衝役を担ってくれたものです。その場を柔らかくするような人柄は，私にとって何よりの助け舟であり憧れでもありました。本当にありがとうございました。

大堀先生が亡くなりとても残念ですが，あの世で勝田先生と一緒に好きなゴルフをやったり飲み会を楽しんでいる先生のお姿が頭の中をよぎります。

心からご冥福をお祈りいたします。

鹿児島大学名誉教授 黒野 祐一

<総説>

アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の位置づけ
都耳鼻会報 161: 25-28. 2020

耳鼻咽喉科医が知っておくべきワクチン医療－ワクチンによる免疫誘導のメカニズム－
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 92(4): 306-308. 2020

上気道感染症と粘膜免疫
日本耳鼻咽喉科学会会報 23: 1247-1252. 2020

アレルギー疾患に対するワクチン
診断と治療 209(2): 225-229. 2021

<学会>

第121回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会 教育セミナー
「上気道感染症の抗菌薬治療に役立つ基礎知識」
令和2年10月7日 岡山国際交流センター（岡山市）

令和3年同門会・地方部会合同学術講演会
「新規含嗽薬の開発に関する研究」
黒野祐一，井内寛之，片平聖子 令和3年1月16日 Zoom 講演会

<講演>

ジェニナック WEB シンポジウム
「上気道感染症治療におけるキノロン系抗菌薬の位置付け」
令和2年11月13日 かごしま空港ホテル（霧島市）

アレルギー Web セミナー in 九州「アレルギー性疾患治療の最前線」
「日常診療に役立つ鼻の知識と抗ヒスタミン薬の使い方」
令和2年12月5日 田辺三菱製薬鹿児島営業所（鹿児島市）

花粉症 WEB セミナー

「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の位置づけ」

令和3年2月24日 鹿児島サンロイヤルホテルより WEB 配信

愛知アレルギー WEB セミナー

「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の位置づけ」

令和3年2月27日 田辺三菱製薬鹿児島営業所より WEB 配信

せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

〈学会〉

第8回 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会 令和2年9月25日 (東京)

2Web 開催 令和2年10月3日-9日

「当院で検出されたインフルエンザ菌の薬剤感受性の変遷」

〈講演〉

ラジオ Nikkei 「漢方トゥデイ」

印象に残る症例シリーズ

第1回 「漢方を使うようになったきっかけの症例」 令和2年4月8日 放送

第2回 「不定愁訴に対する戦略」 令和2年5月7日 放送

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック 福 岩 達 哉

〈総説〉

福岩達哉：LEAP 診察室 vol. 159 「運動不足とめまいについて」

情報紙 LEAP 令和2年9・10月号 (令和2年8月20日発行, 南日本出版)

福岩達哉：「耳鼻咽喉科領域におけるアロマセラピー」(序文)

日本アロマセラピー学会会誌 vol.19 (1), 2020.

1. 共催の講演会

第119回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 令和2年11月19日（Web配信）

特別公演：「アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎における type2炎症の関わり」

関西医科大学総合医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

病院教授 朝子 幹也 先生

第120回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 令和3年2月4日（Web会議）

特別公演：「鼻アレルギー診療ガイドラインと難治性副鼻腔炎」

秋田大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

教授 山田 武千代 先生

令和3年の同門会は、1月16日にWeb開催された。コロナ禍であったが、当初は例年どおり城山ホテル鹿児島で十分な感染対策をとって行う予定であった。しかし、年明けすぐに宮崎でも新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、宮崎県が不要不急の県外移動自粛を要請し、鹿児島大学としても職員の集会自粛要請がだされた。特別講演の演者としてお呼びしていた宮崎大学の東野哲也先生の県外移動が困難であり、同門会としても鹿児島県の耳鼻咽喉科医が多数集まるのは好ましくないことから、急遽Web開催とした。本年は、同門会長として森山一郎先生が就任し、当教室の教授として山下勝先生が就任された後のはじめての同門会であった。新入会員として、教授の山下勝先生、後期研修医として安藤由美先生、徳重豪士先生、原口めぐみ先生の合計4名を迎え入れることができた。教室が新体制になり、医局員も増加してきており、今後の鹿児島県の耳鼻咽喉科医療がますます活発化することが期待される。

学術講演会も、座長の先生、発表者ともにZoomを用いたりモートで行い、鹿児島大学からは、原口めぐみ先生、宮本佑美先生、黒野祐一先生が、いまきいれ総合病院 頭頸部・耳鼻咽喉科から積山幸祐先生が、鹿児島医療センターから喜山敏先生がそれぞれ一般演題を発表された。特別講演では、宮崎大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科の東野哲也先生が、「聴力改善手術と聴覚管理の融合」という演題で発表された。宮崎大学の耳科手術と、人工聴覚器の進歩の融合をお話しされ、人工聴覚器が世に出回ってきた当初は聴力改善手術と人工聴覚器は敵対するものと考えていたが、いまでは融合するものと考えが変わってきたとの言葉が非常に心に残った。技術革新による新たなデバイスにより医療はより進歩する。医師も常にアップデートを心掛けないと時代に取り残されることになると考えさせられた。

役員会、総会、学術講演会と3つの会をWebで行うための準備をほぼ1週間で仕上げたため、一通りの流れは終了できたが、多方面にご迷惑をおかけした。この場をお借りしてお詫び申し上げるとともに、ご協力いただいた会員各位には感謝申し上げます。

例年同門会報告では、新年の同門会員の集合写真を掲載していたが、Web開催のため今回は集合写真がない。はやくコロナが収束し以前のように皆で立食会食をしたり、集合写真を撮ったりすることができるようになることを祈念する。

(文責：大堀純一郎)

【対象地域】

阿久根市，志布志市，大崎町，西之表市，輝北地区，屋久島町

【受診者数】

小学生 3,221人， 中学生 1,578人

【対象疾患】

耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，アレルギー性鼻炎，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大の9疾患

【結果】

疾患別の有病率はアレルギー性鼻炎と耳垢栓塞が圧倒的に多い結果となった。(図1)
 学年別耳疾患有病率は耳垢栓塞が小学1年生に特に多くそれ以外の学年は大きな差はなかった。(図2)

学年別鼻疾患有病率はアレルギー性鼻炎は全学年で多く，小学高学年～中学生に鼻中隔湾曲症を認めた(図3)

学年別扁桃疾患有病率は小学校・中学校ともに低学年を中心に扁桃肥大が多く，小学校高学年を中心に慢性扁桃炎が多い結果となった。(図4)

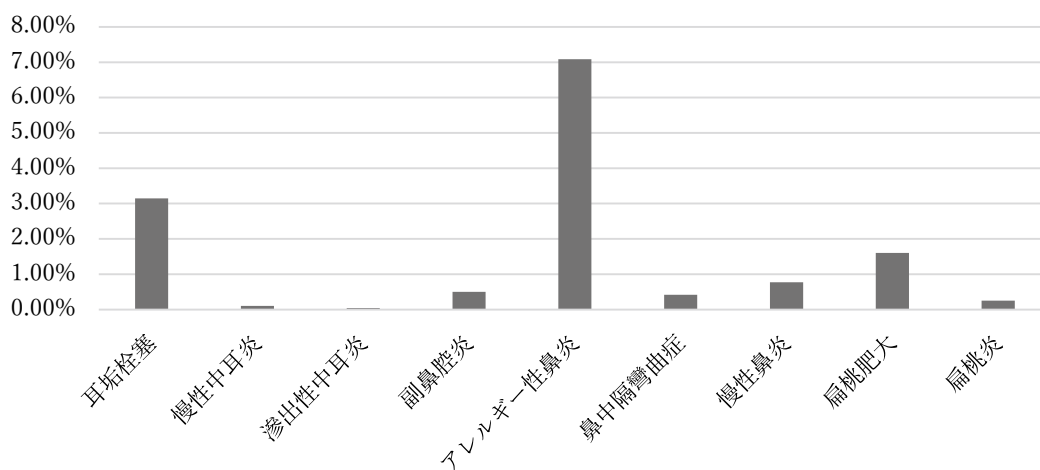


図1. 疾患別の有病率

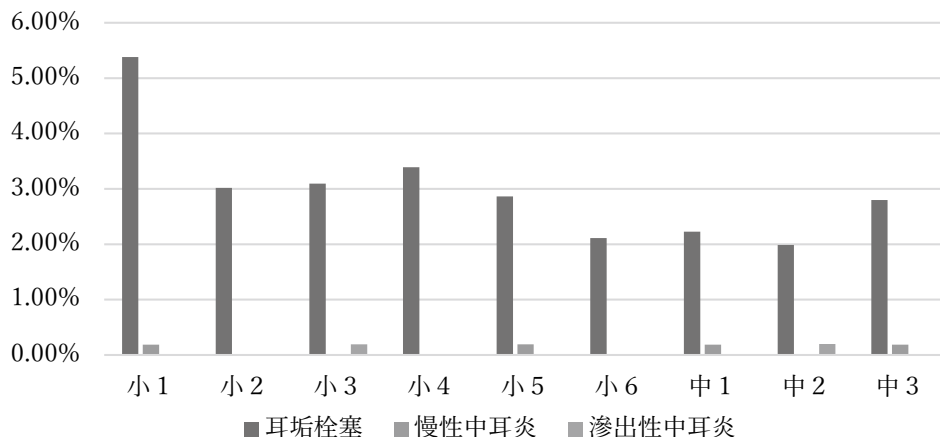


図2. 学年別耳疾患有病率

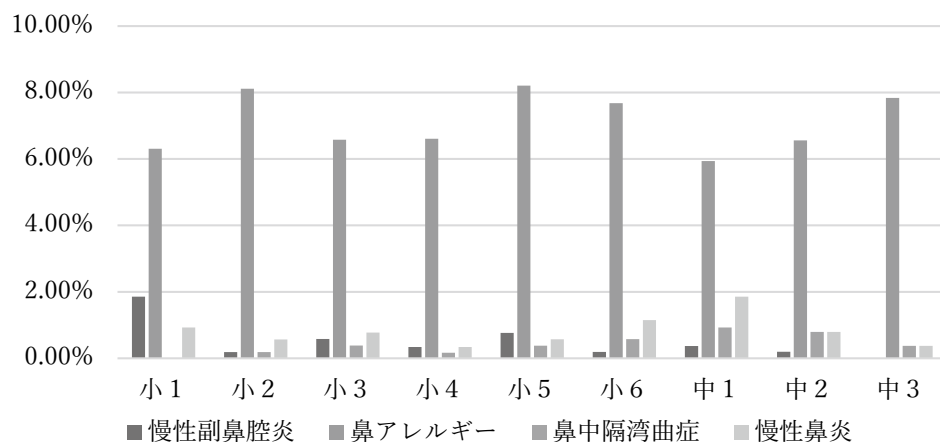


図3. 学年別鼻疾患有病率

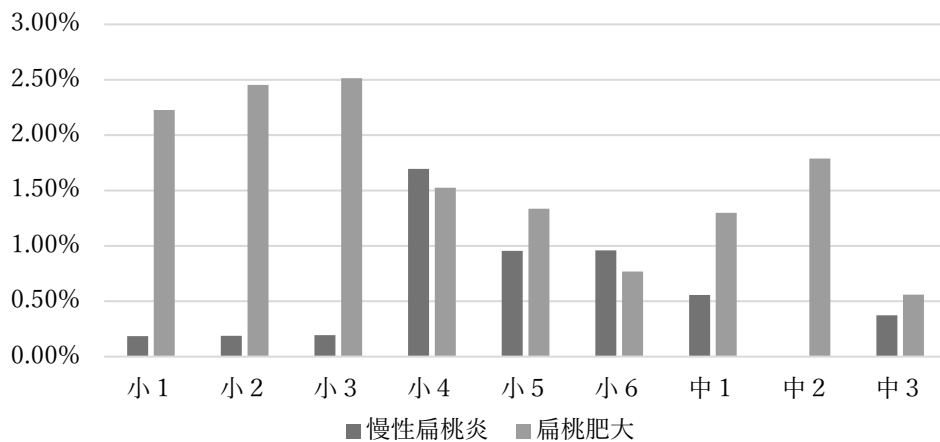


図4. 学年別扁桃疾患有病率

難聴・耳鳴り・補聴器外来

宮之原 郁 代

例年に引き続き、小児・成人難聴の精査、難聴の遺伝子診断、人工内耳候補者選定、術後の（リ）ハビリテーション、補聴器フィッティング、TRT療法、めまいの精査・リハビリ等をおこなっています。過去5年間の各種検査数について表1に示しました。

本年の傾向としては、前庭機能検査の件数はやや減少、補聴器、耳鳴り外来、難聴の遺伝学的検査については大きな変化なく、CORはやや増加でした。新型コロナウイルス感染症の影響は、大きくは見られなかったと言えます。今後も、これまでの体制を維持しながら、幅広い年齢層の聴覚障害、平衡障害に対応していけるよう研鑽していきたいと思っております。

表1

	ABR	補聴器外来	耳鳴り外来 (TRT療法)	難聴の 遺伝学的検査 (家系数)	難聴の 遺伝学的検査 (人)	前庭機能 検査	COR
2016年	78	17	13	12	31	92	25
2017年	73	29	13	5	11	42	17
2018年	77	36	6	8	22	67	27
2019年	92	31	5	6	11	60	26
2020年	91	27	5	12	19	39	37

* 前庭機能検査は件数、他は新患者数

VIII. 病理集計

病理集計

外来
入院（迅速含む）
総施行件数

件数
532
458
990

2020年1-12月

部位	悪性	件	良性	件
外耳・中耳	SCC	4	cholesteatoma	10
			osteoma	3
			schwannoma	1
			periauricular fistula	5
鼻腔	SCC	4	inverted papilloma	6
	sinonasal undifferentiated carcinoma	2	squamous papilloma	3
	paraganglioma	2	hemangioma	3
	DLBCL	2	osteoma	1
	malignant melanoma	1	nasopalatine duct cyst	1
	adenocarcinoma	1		
	myeloma	1		
副鼻腔	SCC	10	inverted papilloma	1
	DLBCL	2		
	ALCL	1		
口腔・舌	SCC	17		
	DLBCL	1		
	epithelial-myoepithelial carcinoma	1		
上咽頭	SCC	5		
中咽頭	SCC total	34	squamous papilloma	11
	HPV-positive	12		
	HPV-negative	18		
	HPV-unclear	4		
	DLBCL	7		
	mantle cell lymphoma	1		
	mucoepidermoid carcinoma (low-grade)	1		
ATL	1			
下咽頭	SCC	55	squamous papilloma	1
			pyriform fossa fistula	1
喉頭	SCC	35	laryngeal nodule	4
	small cell carcinoma	1	laryngeal cyst	4
			vocal cord polyp	3
			epiglottitis cyst	3
			squamous papilloma	2
			laryngeal amyloidosis	1
耳下腺	adenoid cystic carcinoma	2	pleomorphic adenoma	22
	mucoepidermoid carcinoma (high-grade)	1	warthin tumor	13
	carcinoma ex pleomorphic adenoma	1	lymphoepithelial cyst	2
	salivary duct carcinoma	1	basal cell adenoma	1
	metastasis of SCC	1	spindle cell myoepithelioma	1
顎下腺			pleomorphic adenoma	1
小唾液腺			chronic sialadenitis with SS	4
甲状腺	papillary carcinoma	16	adenomatous goiter	4
	follicular carcinoma	1		
	metastasis of SCC	3		
頸部	metastasis of SCC	30	lipoma	3
	metastasis of papillary carcinoma	6	thyroglossal duct cyst	3
	metastasis of carcinoma	5	schwannoma	2
	metastasis of ACC	1	extra-abdominal fibromatosis	1
	metastasis of urothelial carcinoma	1		
	multiple myeloma	1		
	DLBCL	1		
	follicular lymphoma	1		

Ⅸ. 手術実績

令和2年度 手術内訳と件数 (2020年4月～2021年3月)

全身麻酔	455件
局所麻酔	64件
合計	519件

耳

鼓膜形成術	4
鼓室形成術	15
乳突削開術	1
顔面神経減荷術	3
耳瘻管摘出術	5
鼓膜チューブ留置術	6
外耳道腫瘍摘出術	3
外耳道異物摘出術	1
中耳異物摘出術	1
外耳道形成術	2

鼻

鼻内視鏡下鼻副鼻腔手術	111
鼻中隔矯正術	62
粘膜下下鼻甲介骨切除術	45
後鼻神経切断術	20
鼻出血止血術	6
顔面骨骨折整復術	2
眼窩底骨骨折整復術	2
上顎全摘術	1
上顎洞異物摘出術	1

口腔

舌良性腫瘍切除術	2
舌悪性腫瘍切除術	5
口腔底悪性腫瘍切除術	2
唾石摘出術	経口腔 2

咽頭

口蓋扁桃摘出術	78
アデノイド切除術	16
食道直達鏡検査	3
下咽頭悪性腫瘍摘出術	経口腔 24
下咽頭悪性腫瘍摘出術	咽喉食摘 10
中咽頭腫瘍摘出術	4
中咽頭悪性腫瘍摘出術	8
咽頭外瘻閉鎖術	6

喉頭

喉頭微細手術	24
喉頭悪性腫瘍摘出術	経口腔 7
喉頭悪性腫瘍摘出術	喉摘 6
喉頭直達鏡検査	2
喉頭狭窄症手術	2
ボイスプロテーゼ挿入術	provox 6
甲状軟骨形成術	6
喉頭異物除去術	4

甲状腺

甲状腺良性腫瘍切除術	6
甲状腺悪性腫瘍切除術	10

唾液腺

耳下腺腫瘍摘出術	22
顎下腺腫瘍摘出術	12
舌下腺摘出術	2

頸部

上顎部分切除術	1
下顎部分切除術	1
頸部郭清術	47
気管切開術	35
リンパ節摘出術	9
頸部腫瘍摘出術	16
気管口狭窄開大術	2
頸部膿瘍切開排膿術	5

再建

遊離空腸再建	14
前腕皮弁再建	2
大胸筋皮弁再建	4
DP皮弁再建	2

両側は1件としてカウント

同日複数術式のものを合計では1件としてカウント

(令和3年3月現在)

< 文部科学省科学研究費 >

基盤研究 (C)

喉頭気管粘膜障害からの修復促進機序の解明

研究代表者 山下 勝

若手研究

細菌接着におけるホスホリルコリンの関与と新たな治療法の開発に関する研究

研究代表者 井内 寛之

若手研究

高齢者の肺炎球菌感染予防のためのホスホリルコリン経鼻追加ワクチンの開発

研究代表者 宮本 佑美

基盤研究 (C)

新規粘膜アジュバントを用いた広域スペクトラムワクチンの開発に関する研究

研究代表者 黒野 祐一

挑戦的研究 (萌芽)

バイオ3Dプリンターを用いた声帯組織の再生

研究代表者 大森 孝一 分担研究者 山下 勝

< その他 >

GSK ジャパン研究助成

宮下 圭一

ホスホリルコリン経鼻ワクチンによる新たなアレルギー疾患治療法の開発に関する研究

シオノギ製薬奨学寄附サポート

宮本 佑美

Allergic rhinitis における Morning Attack の病態解明

大鵬薬品奨学寄附金

川島 雅樹

上気道感染とアレルギー性炎症の制御

田辺三菱製薬 医学・薬学研究への支援

川島 雅樹

上気道ウイルス感染により引き起こされる上気道細菌性感染症とアレルギー性炎症増悪の病態解明

エーザイ医学・薬学に関する研究活動への奨学寄附金

川島 雅樹

上気道ウイルス感染により引き起こされる上気道細菌性感染症とアレルギー性炎症増悪の病態解明

1. 原 著

- (1) 松元隼人, 永野広海, 馬越瑞夫, 川島雅樹, 黒野祐一
びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫を合併した耳下腺 Warthin 腫瘍の 1 例
日本口腔咽頭科学会 33(2): 65-70, 2020
- (2) 松崎尚寛, 井内寛之, 大堀純一郎, 黒野祐一
先天性完全側頸瘻の 1 例
頭頸部外科 30(1): 61-65, 2020
- (3) 宮本佑美, 永野広海, 大堀純一郎, 黒野祐一
顔面打撲による眼瞼腫脹が疑われた小児ランゲルハンス細胞組織球症の 1 例
耳鼻と臨床 66: 154-160, 2020.
- (4) 大堀純一郎
Cold メスによる口蓋扁桃摘出術
頭頸部外科 30(2): 183-185, 2020
- (5) 大堀純一郎
扁桃周囲膿瘍の診断と治療
耳鼻臨床 113(11): 756-757, 2020
- (6) 有本一華, 永野広海, 谷本洋一郎, 間世田佳子, 松元隼人, 宮本佑美, 川島雅樹,
大堀純一郎, 宮之原郁代, 黒野祐一, 山下 勝
Grade 3, 4 突発性難聴における高気圧酸素療法の有用性の評価
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 93(1): 67-73, 2021
- (7) 宮本佑美, 永野広海, 大堀純一郎, 黒野祐一
食道入口部狭窄の 1 例
日本気管食道科学会会報 72(3): 145-152, 2021

- (8) 宮本佑美, 黒野祐一
 経口切除を施行した咽喉頭脱分化型脂肪肉腫例
 耳鼻咽喉科臨床 113(5), 315-321, 2020
- (9) 伊東小都子, 川島雅樹, 山下 勝
 内視鏡下鼻腔手術で開窓した鼻口蓋管嚢胞の1例
 日本鼻科学会会誌 59, suppl.S67, 2020
- (10) 大堀純一郎
 【耳鼻咽喉科診療 Q&A】 鼻科領域 鼻出血で出血点不明の場合、薬を処方するメ
 リットはありますか? (Q&A/ 特集)
 JOHNS 36(9), 1206-1207, 2020
- (11) 喜山敏志, 大堀純一郎, 黒野祐一
 経口的咽喉頭部分切除術 (TOVS) の問題点 (会議録)
 日本気管食道科学会会報 71(2), s32, 2020
- (12) 田淵みな子, 原田みずえ, 大堀純一郎, 山下 勝
 咽頭痛・発熱を主訴に来院した無顆粒球症の1例
 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌 8(4), 362-363, 2020
- (13) 久徳貴之, 井内寛之, 川島雅樹, 山下 勝
 Fusobacterium 属が検出された扁桃周囲膿瘍の臨床的特徴
 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌 8(4), 304, 2020
- (14) 川島雅樹, 地村友宏, 黒野祐一
 結合化ホスホリルコリン (リピジュア) の粘膜アジュバント効果についての検討
 アレルギー 70(1), p55, 2020
- (15) 喜山敏志, 原田みずえ, 黒野祐一
 突発性難聴が疑われた多発性硬化症の1例
 耳鼻咽喉科臨床 補冊 155, p123, 2020

- (16) 井内寛之, 喜山敏志, 黒野祐一
 上皮細胞内侵入細菌に対する各種抗菌薬の作用
 耳鼻咽喉科臨床 補冊 155, p176, 2020
- (17) Kawabata M, Nagano H, Iuchi H, Umakoshi M, Ohori J, Kurono Y.
 Squamous cell carcinoma at sites of old maxillary fractures.
 Auris Nasus Larynx. 2020 Jun; 47(3): 477-480.
- (18) Ohori J, Miyashita K, Harada M, Nagano H, Makise T, Umakoshi M, Iuchi H, Jimura T,
 Kawabata M, Kurono Y.
 Unilateral arytenoid swelling in acute epiglottitis suggests the presence of
 peritonsillar abscess.
 Auris Nasus Larynx. 2020 Dec; 47(6): 1023-1026.
- (19) Iuchi H, Kyutoku T, Ito K, Matsumoto H, Ohori J, Yamashita M.
 Impacts of Inflammation-Based Prognostic Scores on Survival in Patients With
 Hypopharyngeal Squamous Cell Carcinoma.
 OTO Open. 2020 Dec 29; 4(4): 2473974X20978137.
- (20) Iuchi H, Ohori J, Kyutoku T, Ito K, Kawabata M.
 Inhibitory effects of 2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine polymer on the
 adherence of bacteria causing upper respiratory tract infection.
 J Oral Microbiol. 2020 Aug 20; 12(1): 1808425
- (21) Ohori J, Iuchi H, Maseda Y, Kurono Y.
 Phosphorylcholine intranasal immunization with a 13-valent pneumococcal
 conjugate vaccine can boost immune response against Streptococcus pneumoniae.
 Vaccine. 2020 Jan 16; 38(3): 699-704.
- (22) Ohori J, Iuchi H, Nagano H, Umakoshi M, Matsuzaki H, Kurono Y.
 The usefulness of abscess tonsillectomy followed by intraoral drainage for
 parapharyngeal abscess concomitant with peritonsillar abscess in the elderly.
 Auris Nasus Larynx. 2020 Aug; 47(4): 697-701.

- (23) Nagano H, Fujiwara Y, Matsuzaki H, Umakoshi M, Ohori J, Kurono Y.

Three cases of non-occlusive mesenteric ischemia that developed after head and neck cancer therapy.

Auris Nasus Larynx. 2020 Jul; 25: S0385-8146(20): 30160-7

2. 総 説

- (1) 山下 勝

各科スペシャリストが伝授 内科医が知っておくべき疾患 102

3.2 副鼻腔炎 2020年4月30日発刊 p.60-61. 中山書店

- (2) 大堀純一郎

特集 耳鼻咽喉科診療 Q&A

鼻出血で出欠点不明の場合, 薬を処方するメリットはありますか?

JOHNS 36(9): 1206-1207, 2020

- (3) 大堀 純一郎

耳鼻咽喉科領域のワクチン研究最前線 肺炎球菌ワクチンの現状と今後の展望

日本耳鼻咽喉科学会会報 123: 217-222, 2020

- (4) 永野広海

特集 今さら聞けない自己免疫疾患の基礎知識

再発性多発軟骨炎

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 92(10): 826-830, 2020

- (5) 積山幸祐

鼻副鼻腔の希少疾患を究める

感染性疾患「鼻副鼻腔放線菌症」

JOHNS 37(2): 158-160, 2021

3. 国内学会発表

- (1) 特別講演

第62回鹿児島県耳鼻咽喉科医会学術講演会 令和2年10月3日(鹿児島市)

「鼻科手術の進歩について」

山下 勝

第114回日耳鼻宮崎県地方部会イブニングセミナー 令和2年12月19日（宮崎市）

「喉頭癌治療をはじめとした喉頭手術について」

山下 勝

鹿児島県内科医会学術講演会 令和3年1月28日（Web開催）

「耳鼻咽喉科の守備範囲－アレルギー性鼻炎から頭頸部癌まで－」

山下 勝

CRSwNP Expert Meeting in Kagoshima 令和3年2月18日（鹿児島市）

「好酸球性副鼻腔炎に対する抗体治療薬（デュピルマブ）の使用経験」

宮下圭一

第10回武蔵小杉耳鼻咽喉科セミナー WEB講演会 令和3年2月20日（WEB開催）

「喉頭疾患に対するアプローチ」

山下 勝

第181回御茶ノ水耳鼻咽喉・頭頸科治療研究会 令和3年2月25日（WEB開催）

「喉頭の手術について」

山下 勝

OASIS 2021

Okinawa Allergy Science Initiative Symposium 令和3年3月27日（WEB開催）

「コロナ禍のアレルギー性鼻炎薬物療法」

牧瀬高穂

(2) 教育講演

日本アレルギー学会

第3回九州・沖縄支部地方会 令和3年2月20日 佐賀市（WEB開催）

「好酸球性副鼻腔炎の診断と治療」

川畠雅樹

(3) 一般

第59回日本鼻科学会総会・学術講演会 令和2年10月10日～11日
東京都（WEB開催）

「内視鏡下鼻腔手術で開窓した鼻口蓋管嚢胞の1例」

伊東小都子, 川畠雅樹, 山下 勝

第90回日本感染症学会西日本地方会学術集会

第63回日本感染症学会中日本地方会学術集会

第68回日本化学療法学会西日本支部総会 令和2年11月5日～7日

福岡市（WEB開催）

「成人の急性咽頭炎・扁桃炎の抗菌薬治療」

大堀純一郎

第8回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会 東京都

令和2年9月25日～26日（現地開催）令和2年10月3日～16日（Web開催）

「咽頭痛・発熱を主訴に来院した無顆粒球症の1例」

田淵みな子, 原田 みずえ, 大堀 純一郎, 山下 勝

「Fusobacterium 属が検出された扁桃周囲膿瘍の臨床的特徴」

久徳貴之, 井内寛之, 川畠雅樹, 山下 勝

第82回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会

令和2年12月24日～25日 京都市（Web開催）

「口腔底類表皮嚢胞の2例」

積山幸祐, 花牟禮豊, 昇 卓夫

「細胞内に侵入した細菌に対する抗菌薬の影響」

井内寛之, 喜山敏志, 黒野祐一, 山下 勝

「副甲状腺癌の血管内転移症例」

松崎尚寛, 西元謙吾, 松崎 勉, 久徳貴之, 伊東小都子

「突発性難聴が疑われた多発性硬化症の一例」

喜山敏志, 原田みずえ, 永野広海, 山下 勝

令和3年鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会

日耳鼻鹿児島県地方会合同学術講演会

令和3年1月16日 鹿児島市（Web開催）

「口腔底皮様嚢胞の2例」

積山幸祐, 鎌田知子, 花牟禮豊, 福田勝則, 昇 卓夫

「経鼻内視鏡下に摘出した前頭蓋底傍神経節腫の1例」

宮本佑美, 大堀純一郎, 原田みずえ, 山下 勝

「耳下腺黄色肉芽腫に対する診断と治療」

喜山敏志, 伊東小都子, 西元謙吾, 松崎 勉

「ゴアテックス®を使用した甲状軟骨形成術」

原口めぐみ, 伊東小都子, 宮本佑美, 山下 勝

日本アレルギー学会

第3回九州・沖縄支部地方会 令和3年2月20日 佐賀市 (WEB開催)

「好酸球性副鼻腔炎の重症度分類と術前嗅覚障害の程度に関する検討」

松元隼人, 大堀純一郎, 川島雅樹, 山下 勝

1. 新入局員紹介

峠 早紀子

この度、鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局いたしました峠早紀子と申します。

入局から早1か月が経とうとしていますが、まだまだ不慣れなことが多く、上級医の先生方にアドバイスを頂きながら日々の診療に取り組んでいる毎日です。

今年は耳鼻科入局が自分ひとりで、4月を迎えるまで不安と寂しさでいっぱいでしたが、始まってみると、周りの先生方やスタッフのみなさんのおかげで当初感じていたものが軽くなったように感じます。

未熟ではありますが、これから精一杯頑張っていきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

2. 医局人事（令和3年6月現在）

教授	山下 勝
准教授	大堀純一郎
講師	永野広海
助教	宮下圭一, 川島雅樹, 田淵みな子, 井内寛之
医員	宮本佑美, 久徳貴之, 松元隼人, 松崎尚寛, 原口めぐみ, 峠 早紀子

医局長	川島雅樹
外来医長	永野広海
病棟医長	大堀純一郎

関連病院（令和3年6月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾, 伊東小都子, 安藤由実
鹿児島市立病院	高木 実, 馬越瑞夫
今給黎総合病院	積山幸祐, 徳重豪士
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
あまたつクリニック	喜山敏志
鹿児島厚生連病院	牧瀬高穂

3. 学会報告

第3回日本アレルギー学会九州・沖縄地方会

川 島 雅 樹

令和3年2月20日に第3回日本アレルギー学会九州・沖縄地方会が開催されました。佐賀での開催予定でしたが、WEB開催となりました。当教室からは松元先生と私の2人が参加しました。松元先生は「好酸球性副鼻腔炎の重症度分類と術前嗅覚障害の程度に関する検討」という演題で発表しました。実臨床において好酸球性副鼻腔炎は増え続けている印象があり、症例を積み重ねて新たな知見を今後も発表されると思います。

私は「好酸球性副鼻腔炎の診断と治療」という演題で、教育講演の場を頂きました。WEB形式で教育講演を務めさせていただくことは初めての体験でした。参加されている先生方の顔が見えない中での発表で、会場での発表とはまた異なる緊張感がありました。例年の学会発表後はご当地のグルメを堪能するというのが楽しみの一つですが、

今回の発表後は缶コーヒーとサンドイッチでほっと一息ついて家路につきました。会場で全国の先生方と直接お話できる日が待ち遠しいです。

第82回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術総会

喜 山 敏 志

2020年12月24日・25日に第82回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術総会が開催されました。元々は2020年6月25日・26日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、半年ほど延期しての開催となりました。

当教室からは山下勝教授、積山幸祐先生、井内寛之先生、松崎尚寛先生、私の4人が参加しました。山下先生は一般演題ポスター「喉頭1にて座長を務められ、積山先生は「口腔底巨大類表皮嚢胞の1例」、井内先生は「上皮細胞内侵入細菌に対する各種抗菌薬の作用」、松崎先生は「副甲状腺癌の血管内転移症例」、私は「突発性難聴が疑われた多発性硬化症の1例」という演題でそれぞれWEB発表いたしました。WEBでの発表は時間の面など便利ではありましたが、学会独特の雰囲気や発表の緊張感とはとても感じられるものではありませんでした。新型コロナウイルスの収束、以前のような学会が開けるような日が来ることを願わずにはいられない学会でした。

第90回日本感染症学会西日本地方会学術集会・ 第63回日本感染症学会中日本地方会学術集会・ 第68回日本化学療法学会西日本支部総会

大 堀 純一郎

本学会は2020年11月5日から7日まで福岡県のアクロス福岡で開催された。当科からは大堀が参加した。シンポジウム1 「上気道感染症 / 耳鼻咽喉科感染症に対する抗菌薬治療」司会 門田 淳一先生（地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター）、保富 宗城先生（和歌山県立医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）において「成人の急性咽頭炎・扁桃炎の抗菌薬治療」について発表した。コロナ禍での学会で、シンポジウムも現地参加、リモート参加のハイブリッド形式で行われた。シンポジウムでは、上気道感染症に対して、小児科の立場から川崎医科大学の大石智洋先生、感染症科の立場から大分大学の小宮幸作先生がそれぞれ発表された。耳鼻咽喉科からは、和歌山県立医大の杉田玄先生が「急性中耳炎および急性鼻副鼻腔炎に対する抗菌剤適正使用に基づく治療戦略」について発表された。杉田先生は、私が留学したアラバマのワクチンセンターに同時期に留学しておられ、しばらく一緒に研究をした仲である。当時を懐かしむとともに、帰国後も研究継続している姿に刺激を受けた。学会は、既知の研究仲間と刺激しあったり、新しい分野の研究者と出会ったりする絶好の機会であるが、今後はこのような形の学会が増えていくのだろうと感じた。一方で、地方にいても交通費を使わず、いろんな研究者たちとディスカッションできるような環境になることで、ますます励まねばならないと感じた。

第59回日本鼻科学会総会・学術講演会

伊 東 小都子

順天堂大学の主催で行われました同学会ですが、コロナの関係もあり、リモートでの参加となりました。私は「内視鏡下鼻腔手術で開窓した鼻口蓋管嚢胞の1例」についてZOOMを使った発表を行いました。初めてのリモートの発表であり、内容もですが、きちんと繋がるか、自宅のネット環境は問題ないかなどの緊張感もあり、新鮮な気持ちでの発表となりました。自分の発表までは緊張して他の人の発表がなかなか耳に入らず、終わった後はリラックスして発表を聞くことができるのは、現地での発表でもリモートでも変わらないかな、と感じました。参加させていただき、感謝しております。

4. 関連病院便り

鹿児島医療センター便り

西 元 謙 吾

令和2年度の鹿児島医療センターは新型コロナウイルス感染蔓延の影響をもろに浴びるような1年でした。4月末から6月までは緊急事態宣言で入院を制限したことから手術症例が極端に減少し、その後は回復するものの、年が改まった2月に病棟内で発生した新型コロナウイルスのクラスターで1か月ほど手術ができない期間がありました。その影響は計り知れず、現在この関連病院便りを作成している時点でも完全には回復していません。クラスター対応時に当院が外来休診・病棟閉鎖の影響で皆様に多大なご迷惑をおかけしたことにこの場をかりてお詫び申し上げます。この新型コロナウイルスクラスター発生の経緯につきましてはいずれ皆様にご報告したいと考えています。当院では入院時に抗原検査、胸部CT、PCRなどをほぼ全例に行っていましたが、それにもかかわらずクラスターが発生したことはこの新型コロナウイルス感染防御の難しさを如実に物語っています。

その新型コロナウイルスクラスターの影響もあり、当院での耳鼻咽喉科診療は大きく変貌しました。病院の構造上の問題で外来・病棟とも窓を開けた換気ができないため、すべてのユニットにクリーンパーテーションを設置しました。これは、空気の流れを一方方向のみにする装置でエアロゾルの暴露を大幅に減少させます。また、内視鏡検査や組織生検の処置の際にも原則PPEを基本として厳重な感染対策をとっています。耳鼻咽喉科は飛沫やエアロゾルを発生する機会が多い診療科ですので、新型コロナウイルス感染がいまだに猛威を振るっている現状ではやりすぎくらいの対策がいいのかもしれませんが、基本的には入院・外来すべての患者が感染していると考えて対応するようにしています。また、これまでの外来診察では患者が多くいわゆる「密」になっている環境を感染対策チームに指摘されおり、今後は紹介していただいた先生方と診療連携をより進めて効率のいい診療に努めていきたいと考えています。

スタッフとして今年度は前半に喜山聡先生・徳重先生、後半は喜山先生・安藤先生が来ていただいて、新型コロナウイルス感染対策が困難な状況の中鹿児島医療センターの耳鼻咽喉科診療を担っていただきました。先生方には歓迎会・送別会もろくにできず、特に喜山先生、安藤先生はクラスター発生時に10日ほどホテル住まいまでしていただきましたこともあり申し訳なく思っています。特殊な体験ができたというプラス思考に考えていただければありがたいのですが。

昨年度は歴代最多の手術件数でしたが、令和2年度の手術症例は症例数が大きく減少

しています。巷ではワクチンの接種が始まっていますが、あと1～2年は状況が好転するとは考えにくく、精神的に緊張を強いられる状況が続くかもしれません。偶然にも昨年の鹿児島医療センター便りで、「新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で医療システムも大きく変容していくかもしれません」と書いていますが、平成3年度も with コロナ, after コロナにむけてさらなる医療システムの変化があるかもしれません。新しい情報を吸収し、二度とクラスターを発生させないように努めてまいりますので今年度もよろしくをお願いします。

手術件数（手術記録にあるもの）

良性疾患

口蓋扁桃摘出術（アデノイド切除術同時手術も含む）	67例
内視鏡下鼻副鼻腔手術（鼻中隔・下鼻甲介同時手術も含む）	両側44例 片側73例
鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲介骨切除術	11例
顔面骨骨折整復手術	1例
鼓室形成術（耳小骨再建あり）	10例
鼓室形成術（耳小骨再建なし）・鼓膜形成術	11例
顔面神経管開放術・内耳窓閉鎖術	9例
外耳道良性腫瘍手術・外耳道遺物（複雑）	5例
悪性外耳道炎手術	1例
チューブ留置術・アデノイド切除・先天性耳瘻孔など	16例
耳下腺良性腫瘍摘出術	48例
顎下腺良性摘出術・顎下腺腫瘍摘出術	13例
舌下腺良性摘出術・舌下腺腫瘍摘出術	5例
甲状腺良性腫瘍摘出術	7例
副甲状腺腫瘍摘出術	3例
頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	18例
深頸部膿瘍切開排膿	3例
口腔・咽頭腫瘍など	21例
喉頭直達鏡手術・食道直達鏡手術	73例
その他（気管切開・リンパ節摘出術・皮弁形成術など）	61例
	500例

悪性疾患

頭頸部悪性腫瘍手術（再建術あり：口腔1，中咽頭1，下咽頭7）	9例
喉頭全摘術	3例
口腔・咽頭悪性腫瘍手術（経口腔的）	13例
喉頭悪性腫瘍手術（経口腔的）	15例
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	2例
頸部郭清術単独	9例
甲状腺悪性腫瘍手術	14例
耳下腺悪性腫瘍手術	6例
顎下腺悪性腫瘍手術	2例
	73例
（悪性腫瘍手術で頸部郭清を行った症例：両側9例 片側17例 合計35例）	
総症例数	573例

鹿児島市立病院耳鼻咽喉科便り**高 木 実**

いつもお世話になっております，鹿児島市立病院耳鼻咽喉科高木です。

2020年度は色々な点で変化を感じる年度でした。

2019年末からのCOVID-19感染症の影響で通常手術の延期や外来診療の変化や，市立病院内でのCOVID-19対応ベッド増床のため各科のベッド数の減少や病棟再編等ありました。以前勤務されていた医師が『人類は感染症に苦しむ』と言っていたことを思い出しました。まさにその通りであり，シュミレーションでは第5波の可能性も示唆されています。来年には収束し，アフターコロナの世界であればと思っています。

また2020年4月からは一時三人体制で診療を行っていましたが，5月には鹿児島大学医局より馬越医師が赴任されました。また12月には宮崎大学医局人事移動で平原医師の退職，2021年1月に後任の宮永医師が赴任されました。

鹿児島市立病院耳鼻咽喉科は新メンバーをむかえ，更なる変化があるかもしれません！

各々頑張りたいと思っています。

今後とも御指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。

鹿児島厚生連病院便り

牧瀬 高穂

鹿児島厚生連病院耳鼻咽喉科の牧瀬です。令和元年6月に赴任して約2年の月日が流れました。鹿児島市内にある入院可能で手術もできる施設として、孤軍奮闘しております。皆様のおかげで手術件数や入院件数も増加傾向にあり、微力ですが地域医療に貢献できたのではと思います。特に鼻科手術に関しては力を入れ、好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡手術やアレルギー性鼻炎などによる鼻閉改善手術を行い（年間196例）、患者さんのQOL向上に繋がるよう努めております。また、急性化膿性扁桃炎や急性喉頭蓋炎、突発性難聴、顔面神経麻痺など、入院加療が必要となる疾患の対応も行なっております。病院スタッフにも耳鼻咽喉科臨床を徐々に理解していただけるようになり、充実した診療を行えるようになりました。今後もより良い耳鼻咽喉科頭頸部外科診療を提供できるよう、スタッフ一同協力して診療に当たりたいと存じます。

藤元総合病院だより

森園 健介

コロナ禍において、なかなかほかの先生方と直接お会いする機会もないまま季節は巡り、また新たな病院だよりを書く季節がやってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。藤元総合病院に勤務させていただいていた森園です。

皆様すでに御存じのことかと存じますが、わたくし森園は2021年3月をもって鹿大耳鼻咽喉科医局を退局させていただくことになり、それに伴い藤元総合病院での勤務も終えることとなりました。

藤元総合病院での勤務は15年近くとなり、非常に長い期間の勤務となりました。その間特に大きなトラブルもなく診療に携わることができたのは、藤元総合病院においては他科の先生方をはじめとして看護師や薬剤師、技師、療法士そして事務方といった数多くのスタッフに、また耳鼻科領域においては鹿児島大学病院や鹿児島市立病院、鹿児島医療センターといった基幹病院の先生方に何度も助けていただいたことによるところだと考えております。感謝の言葉をいくら尽くしても全く足りないほど心から感謝しております。

また併せて片平さん、大夫堀さん、もう居られませんが宮内さん、短い間でしたが中

馬さんといった医局のスタッフの皆様にも大変お世話になりました。私事にはなりますが私も昨年ようやく結婚させていただきました。妻の前職は鹿大皮膚科の秘書だったこともあり、スタッフには迷惑をかけるなど今でも度々注意されております（今回もまたさくらじまの原稿が提出期限を過ぎてしまい、たいへん、たいへん申し訳ございませんでした）。

私の退職に伴い藤元総合病院耳鼻咽喉科は当面鹿大の先生方による週2回の非常勤での勤務になるとのことで、これまでのように急患や入院患者を受け入れることは難しくなるため、近隣の先生方には大変御迷惑をお掛け致します。突発性難聴など高気圧酸素療法が必要な症例につきましては内科の先生との連携で、ある程度入院対応はしていただけると伺っておりますので、御相談していただければと思います。

今後は開業医として都城および大隅地方の診療に携わっていただければと思っております。引き続き山下教授率いる鹿大耳鼻科の皆様や諸先輩方には御迷惑をお掛けすることも多々あると思いますが、今後ともどうか宜しくお願い致します。

最後になりますが、長い間皆様本当にお世話になりました。ありがとうございました。

天辰病院だより

松 崎 尚 寛

2020年度は4月から6月が松元隼人先生、7月から9月が伊東小都子先生、10月から12月が久徳貴之先生、そして1月から3月まで私が勤務させていただきました。

当院は入院施設を併設しているため、通常の外来診療に加えて、近隣の開業の先生方からご紹介いただいた患者様の入院加療や、大学病院での術後の患者様、放射線化学療法後の患者様の継続入院加療を行ってきました。

入局以降、大学病院と鹿児島医療センターでの勤務経験しかない私にとっては、耳鼻科医が一人という環境で不安はありましたが、大学の先生方や病院のスタッフの方々に助けられながら、なんとか勤務できました。

病院では外来看護師さんには日ごろの診療で助けていただき、理事長先生、院長先生、病棟スタッフ、栄養士さん、事務のスタッフの方々にも大変お世話になりました。

2021年度に入り4月からは喜山敏志先生が赴任されています。

コロナウイルスの感染拡大により大変な状況ではありますが、今後も大学、同門の先生方と連携して地域医療の一端を担えるよう頑張っていきますので皆様何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ⅩⅢ. 関連病院

(令和3年6月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	890-8760	鹿児島市上荒田37-1 TEL:099-230-7000 FAX:099-230-7070	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
寺田病院	895-2513	伊佐市大口上町31-4 TEL:0995-22-1321 FAX:0995-22-2947	月・火・木・金 (9:00~17:00) 土 (9:00~12:00) 水曜日休診	
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	水・金 (9:00~15:00)	
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~18:00) 土 (9:00~13:00)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	火・木 (14:00~17:00) 土 (9:00~12:30)	
加治木温泉病院	899-5241	始良市加治木町木田4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木・金 (10:00~16:30) 月・火・水 (9:00~17:30)	
種子島医療センター	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
出水郡医師会 広域医療センター	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
今村総合医院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221	月~土 (8:30~11:30)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
県立大島病院	894-0015	奄美市名瀬真名津町18-1 TEL:0997-52-3611	木 (10:00~17:00) 金 (8:30~15:00)	
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	月・水・木 (8:30~17:00) 土 (8:30~11:30)	火
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	毎週木曜日 (8:30~16:00)	
前原総合病院	899-2201	日置市東市来町湯田3614 TEL:099-274-2521 FAX:099-274-3306	月・火・水・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年7月1日 ～61年12月25日 平成元年6月26日 ～8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年9月6日 ～12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年1月22日 ～2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年5月7日 ～7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年6月25日 ～63年6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 濟霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年8月1日 ～10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年3月9日 ～3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年4月5日 ～平成元年6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phyathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phyathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkklao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成 2 年 12 月 7 日 ～ 3 年 12 月 21 日 平成 5 年 10 月 12 日 ～ 10 月 17 日	Department of Clinical Sciences (ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジャイ病院)	平成 3 年 4 月 10 日 ～ 9 月 7 日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成 4 年 5 月 17 日 ～ 5 年 5 月 16 日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成 4 年 7 月 1 日 ～ 9 月 26 日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成 5 年 8 月 3 日 ～ 9 月 28 日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National Universi ty 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成 5 年 6 月 5 日 ～ 6 月 8 日 平成 6 年 1 月 18 日 ～ 3 月 1 日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutkloa 大 学)	平成 6 年 3 月 11 日 ～ 6 月 4 日	Department of Otolaryngology Pramongkutkloa College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成 6 年 4 月 2 日 ～ 4 月 19 日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振 海	平成 5 年 1 月 25 日 ～ 平成 9 年 3 月 31 日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成6年4月4日 ～7年6月13日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成6年10月3日 ～11年3月31日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成8年1月25日 ～8年12月30日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年3月23日～H13.9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年4月2日～H17.3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月1日 ～H21年2月13日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)

氏 名	最終職別	在局期間
西 宜 行	研 修 生	59. 4 -59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4 -60. 6 61. 1 -61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4 -62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4 -63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63. 10-63. 12
三 角 芳 文	研 修 生	63. 10-63. 12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H 2. 7 -H 2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H 2. 10-H 2. 12
宮 原 広 典	研 修 生	H 3. 1 -H 3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H 5. 7 -H 5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H 5. 10-H 5. 12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H 5. 10-H 5. 12
的 場 康 平	研 修 生	H 7. 1 -H 7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H 7. 10-H 7. 12
泊 口 哲 也	研 修 生	H 8. 1 -H 8. 3
島 名 昭 彦	研 修 生	H 8. 7 -H 8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H 8. 10-H 8. 12 H 9. 4 -H 9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H 9. 1 -H 9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10. 4 -H10. 6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11. 1 -H11. 3
横 山 孝 二	研 修 生	H11. 4 -H11. 6

氏 名	最終職別	在局期間
田 中 裕 之	研 修 生	H11. 7 - H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13. 6 - H13. 12
森 田 喜 紀	研 修 生	H15. 1 - H15. 3

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

(総則)

- 第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。
- 第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

(目的ならびに事業)

- 第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 同門会総会の開催
 2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
 3. 記念事業の開催
 4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会則)

- 第5条 本会は会員を次のとおりとする。
教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。
- 第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）
- 第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。
- 第8条 会員は希望により退会することができる。
- 第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

(役員)

- 第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。
なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。
- 第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。
- 第12条 役員改選時、(旧)役員会は(新)会長候補を決定し、総会での承認を経て

新会長が選出される

- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し、会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し、会長がこれを委嘱する。
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。
(会議)
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し、事業計画、経理その他重要な事項を審議する。
(会則の変更)
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て、変更することができる。
(本会則は平成22年1月17日より施行する。)

編集後記

このたび第35号「さくらじま」を皆様のお手元にお届けすることができました。

「さくらじま」が創刊されたのが大山勝名誉教授就任中の1987年のことです。その後、黒野祐一名誉教授の時代を経て、この度、山下勝教授が就任されました。本号の編集を行いながら、多くの諸先輩方の努力の上に当教室の今があることを強く感じました。同門の諸先生方と教室員との繋がりである縦糸と教室員同士の繋がり横糸によって、教室の歴史が紡がれていくのだと思います。現在教室員のマンパワーは十分とはいいいがたく、新専門医制度や働き方改革の下で教室運営の目前にはたくさんの山々が立ちはだかっています。現状だけを見ていると教室の歴史の一時期を担っていることを見失いそうになりますが、いま現在の横糸が味わいのある織物を織りなしていたのだと振り返られる日を信じて、教室員一丸となっていけたらと切に望みます。長引くコロナ禍で同門の先生方も大変なご苦勞をなされていることとお察しします。晴れて皆で集まって歓談できる日が来ることを楽しみにしております。同門会および地方部会の先生方におきましては、日頃より多大なるご支援をいただき、本当に感謝しております。今後ともご支援のほど何卒よろしくお願い致します。(文責：川畠雅樹)

令和3年6月吉日

編集長(医局長) 川畠雅樹

編集委員 久徳貴之

大夫堀昌子

さくらじま 第35号

令和3年7月5日 印刷

令和3年7月12日 発行

発行 鹿児島大学大学院

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

電話 (099) 275-5410

印刷 斯文堂株式会社

電話 (099) 268-8211

